



尾台榕堂没後140年記念事業を展開



尾台榕堂没後140年記念事業講演会

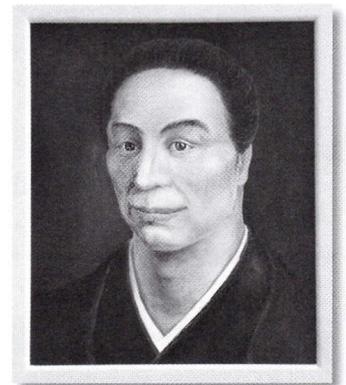


尾台榕堂展会場の肖像画除幕式

記念講演会は市民会館に176名の聴衆を迎えて開かれた。講師は日本東洋医学学会会長寺澤捷年先生。題名は「尾台榕堂大成への序章～初学時代の縁を考える～」。寛政異学の禁の亀田鵬斎との出会い、日本の医傑吉益東洞の高弟岑少翁との出会いを資料で推考した。榕堂先生が多くの医学書を著した理由は西洋医学の流入に危機感を持ったためと推考した。

分かりやすく寺澤先生の貫禄が滲み出た、感銘深い最高の講演会であった。

肖像画は市内稲荷町3在住の佐藤実千代さんの手によるもの。佐藤さんは八海高校の美術講師を務めている。榕堂を描いた絵がないことから、全国に情報発信したが見つからず、榕堂の兄の小杉三省を描いた肖像画と、榕堂の孫である石川桂子さんの写真を参考にして描いた。



完成した尾台榕堂肖像画

バリアフリーまちづくり事業

歩道整備について

栗林昇平

長年の懸案でした中条新田地内の歩道が、地元のご理解と地主さんの協力のもと、半分ほど整備されました。これで通学路、歩行者の特に冬の安全が確保されたものと思います。

まだ中条地区は歩道整備が遅れています。今後とも歩道整備にご理解とご協力をお願いいたします。

公民館まつりを振り返って

公民館運営委員 樋口信助

私は公民館まつりに携わって4年目になりました。

今年の前後夜花火大会は天候に恵まれたこともありましたが4年間の中で一番きれいに見え、大変感動しました。欲を言えばもう少し沢山の花火が見たかったなという願いもあり、来年の花火大会には、より多くの皆様のご協力をお願いしたいと思っております。

まつり当日は展示品、催し物、バザー、発表会と色々ありましたが、この日は多方面でも催しがあったせいか、若干人出が少なく感じられ残念に思いました。

最後になりましたが、役員の皆さん大変お疲れ様でした。